

小中学校で系統性をもたせた  
よりよい自分を創造するための  
地域を題材とした単元の開発

熊野町立熊野中学校  
熊野町立熊野第一小学校  
熊野町立熊野第三小学校

# 研究テーマについて

## 課題

小中の接続が十分考慮されていない

- ・学習内容
- ・育てたい資質・能力
- ・発達段階

## 方策

育てたい資質・能力の共通理解

- ・3校全体として育成を目指す資質・能力を整理, 共有
- ・評価の指標を共有

## 題材

地域を題材に！

- ・児童生徒が生活する「地域」を題材にする

## 報告の概要

### 育成する資質・能力

3校共通して  
【メタ認知】【協  
働】【表現力】  
の3つの領域  
で設定

### ルーブリック

3校共通の【表  
現力】のルーブ  
リックを作成

### 開発した単元

【熊野中】「“避難したくなる避  
難所”を自分たちでつくろ  
う！」(第3学年)

【第一小】「UD公園を つくろ  
う」(第4学年)

【第三小】「あつまれ くまさ  
んの森」(第3学年)

# 育成する資質・能力

メタ認知		協働		表現力	
(熊野第一小)	(熊野第三小)	(熊野第一小)	(熊野第三小)	(熊野第一小)	(熊野第三小)
自分の成長に気付く力 分かる・できる力	分かる・できる力 向上心	協働する力	思いやり	自分の考えを表現する力	表現力
↓		↓		↓	
(熊野中学校) 自己分析 スキルアップ		(熊野中学校) 協働 前向き		(熊野中学校) 表現力 クリティカルシンキング	

point

「メタ認知」「協働」「表現力」の3つの領域を設定

→各校の資質・能力を整理

→小中で段階性を持たせる



# 表現力のルーブリック

目安	<p style="text-align: center;">【表現力】</p> <p style="text-align: center;">自分の考えをまとめ、言語表現し、他者に伝える力。</p>
中3	<p>自ら課題を設定し、解決に必要な情報処理を適切に行い、議論によって導き出した解決案を表現を工夫して発表するとともに、見出した解決案の具体的な実現を目指す。</p>
中2	<p>自ら課題を見つけ、解決に必要な情報処理を適切に行い、議論によって導き出した解決案を表現を工夫して発表するとともに、見出した解決案を多面的多角的に検証する。</p>
中1	<p>課題を多面的に捉えたうえで、目的に応じて情報を集め、話し合い、表現を工夫してまとめ、導き出した解決案を発表する。</p>
高学年	<p>相手や目的、意図に応じて、資料を活用するなど効果的な表現方法を選んで書き表したり、伝えたりしている。</p>
中学年	<p>自分の考えや調べたことなどを、相手や目的を意識して書き表したり、伝えたりしている。</p>
低学年	<p>気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどを、多様な方法（言葉、絵、動作、劇化など）で表現し、伝えている。</p>

# 開発した単元

熊野中学校

第3学年

総合的な学習の時間

「”避難したくなる避難所”  
を自分たちでつくろう！」

—

## 1. 単元の目標

日頃から災害に備える意識を涵養し行動するとともに、災害時には迅速に避難し、中学生の自分たちにできる最大限の方法で避難所運営に参画できるようにする。

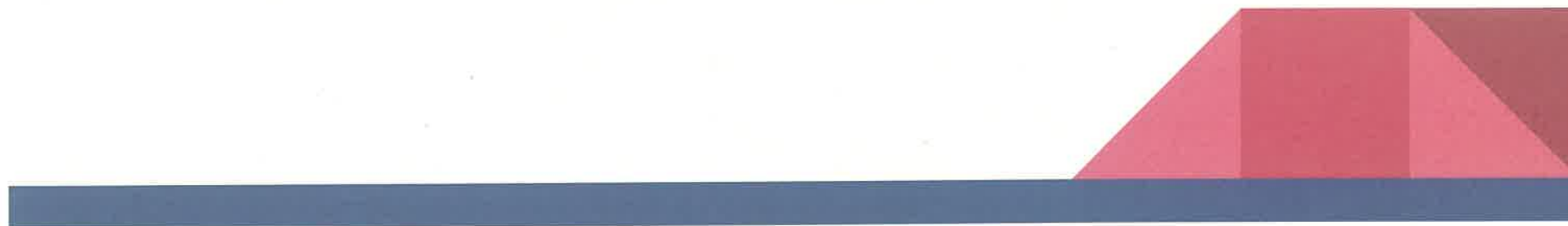
- ・日頃から災害に備える行動をとる。
- ・災害時には迅速に避難する。
- ・避難所で役に立つ人になる。



## 2. 単元の概要

### 第1次 避難所ってどんな場所？

- ・避難所HUG(熊中ver.)をやってみよう！
- ・指定避難所の熊野東防災交流センターの見学  
避難所設営体験





## 2. 単元の概要

避難所HUG(熊中ver.)をやってみよう！



## 2. 単元の概要

### 熊野東防災交流センターの見学，避難所設営体験



## 2. 単元の概要

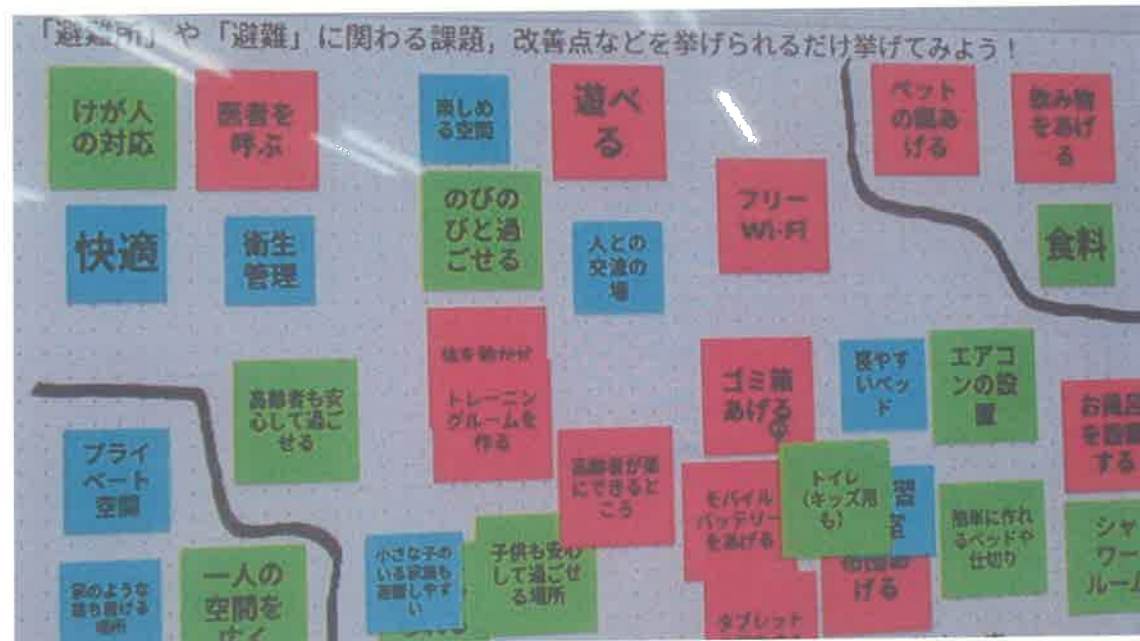
第2次 どんな場所なら避難したくなる？

- ・アイデアをまとめ、提案する準備をしよう！
  - ・Jamboardで課題、改善すべき点を整理
  - ・各班(最大4人)で提案内容を練り、  
タブレットを使ってスライドにまとめる



## 2. 単元の概要

Jamboardで課題，改善すべき点を整理



## 2. 単元の概要

第3次 アイディアを発表しよう！

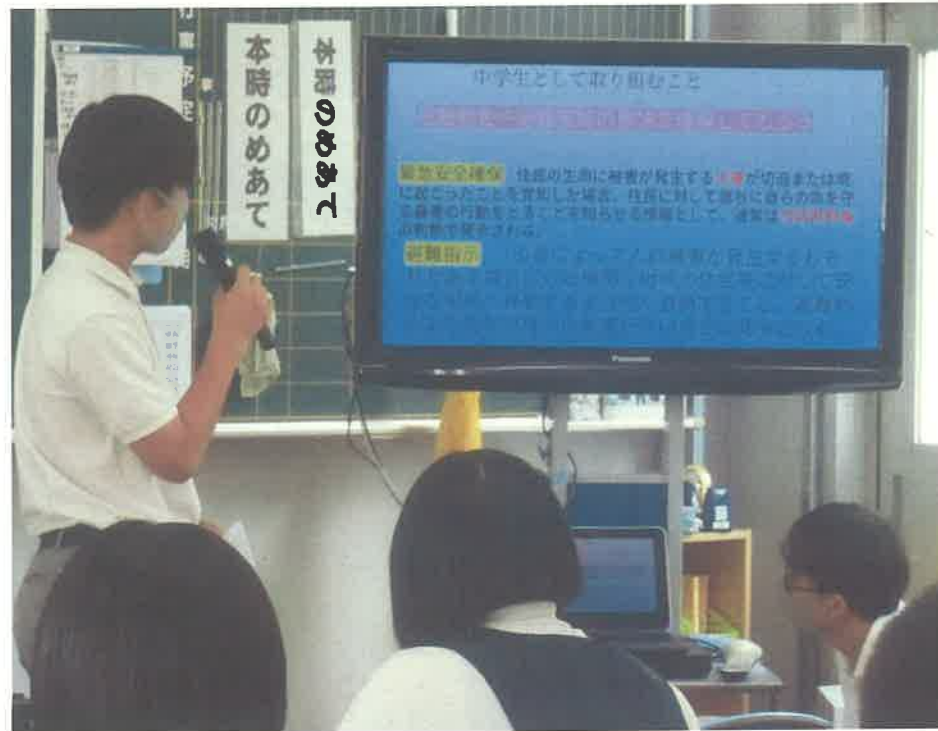
- 学級発表会（各学級で、それぞれ9班ずつ）
- 全体発表の準備（学級としての提案に再構成）
- 全体発表会と振り返り

（各学級からの発表をMeetでつなぐ）



## 2. 単元の概要

- ・学級発表会(各学級で、それぞれ9班ずつ)



## 2. 単元の概要

- ・学級発表会(各学級で、それぞれ9班ずつ)



2. なぜこの解決・改善が大切か  
高齢化社会となっている中、  
避難所に来る高齢者の割合が  
高くなっているため。

開発した単元  
熊野第一小学校

第4学年

「UD公園をつくろう」

—



## ●「UD公園をつくろう～みんなが住みよい町を目指して」

**課題設定**：UDのモデル公園である学区内の「ふれあい公園」のUD見付けを通して、公園にはUDがたくさんあることに気付いた。さらに、「道垣内公園」へUDを見付けに行き、全くUD化されていない「道垣内公園」のUD化を進めたいという思いをもった。

**情報収集**：公園のUD化に向けて、様々な立場の人にアンケートやインタビューを実施し、UD化への道筋を作った。

**整理・分析**：収集した情報を基に、自分達のUD案について考え、取り組む行動を決定した。

**まとめ・表現**：UD公園にするために都市整備課にUD案をまとめて、提案した。また、都市整備課と連携して、UD化に取り組んだ。

## ●公開研究授業における導入



【本時の単元内での位置付け】  
情報収集(8/8時間目)

前時までに行ったそれぞれの立場の人（妊婦さん・高齢者・耳が聞こえない人・目が見えない人・車いすの人・小学生）の情報から、道垣内公園をUD公園にするための「UD案」を友達に伝える。

## ●公開研究授業における展開



UDレベル座標軸（縦軸：UDレベル，横軸：自分たちにできるかどうか）に考えを整理しながら，どのUDが「道垣内公園」にとってよいのかを話し合い，UD案を1つ決める。

自分の意見だけを通そうとするのではなく，自分たちにも行動できるかどうか（費用と時間）がグループで意思決定における決め手となっていた。



## ●公開研究授業におけるまとめ




子ども達の話し合いで、時計の設置・看板づくり（手作りのものと本格的なもの）・整地・草かり・花を植えるという具体的な行動内容として決定した。

さらに、本時以降にこの授業では却下とされたUD案も、話し合いの深まりの中で再検討の対象となった。

例えば「水道の設置」については、子供たち自ら都市整備課に提案することができた。

## ●単元を通して獲得した資質・能力に関わる 子供たちの姿の具体

- ・UD案を、自分達よりも公園に詳しい都市整備課に提案するために、必要なことを調べ、発信につなげることができた。
  - ・取り組む時期、取り組む方法、自分達ができること、金銭面についてなど、多面的な視点からUD化に向けたプロセスを構築し、発信することができた。
  - ・花を植えること、看板を設置すること、草取りをして整地をすることは、UDとして自分たちに実行可能であるということに辿り着けた。その他のことは、多額のお金がかかるにも関わらず、現状の利用者数が少ないことや広さにおける効果の低さから却下となった。子ども達は、何でもできるのではなく、町や町にくらす人にとって「効果の高いもの」が願いとして叶いやすいという新たな側面を学ぶことができた。
- 

開発した単元

熊野第三小学校

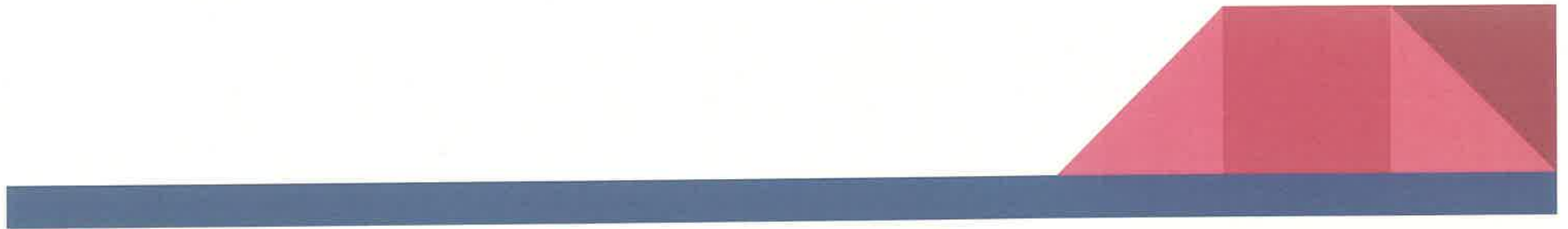
第5学年

「あつまれ くまさんの森」

—

## 1. 単元の目標

収穫祭を調べ、計画、運営することを通して、農業をしている人の思い、作物への感謝、伝統として受け継ぐことの大切さ、地域とのつながりの大切さを自分たちが決めた方法と内容で分かりやすく、表現して伝えていくことができる。



## ●単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
分かる・できる力	表現力	向上心	思いやり
収穫祭を企画，運営することを通して，収穫祭には農業の大切さ，伝統としてつなげる大切さ，作物への感謝があることを理解している。	収穫祭を企画，運営することで，農業の大切さ，伝統としてつなげる大切さ，作物への感謝を出店や動画，映像や劇化など伝えたい内容に即した方法で伝えている。	よりよい収穫祭にするために，自ら工夫し，企画，運営しようとしている。	収穫祭を通して，友だちと協力したり，お客さんを楽しませたりしながら，お互いを大切にしようとしている。



## ●研究授業における導入

### 【本時の目標】

収穫祭のテーマをもとに、伝えたい内容をどのような方法で、どのような意図で伝えると分かりやすいかを話し合うことで、収穫祭のお店の内容を精選することができる。

(8/20時間目)

前時に出た収穫祭のテーマ(感謝, 伝統, つながり)や名前, 招待するお客さんを想起し, 本時のめあて「収穫祭のお店の内容を決めよう」を確認する。



## ●研究授業における展開

- 1 テーマに応じたお店の内容を考え、話し合う。  
(個人→全体)

※思考ツールを活用し、テーマを意識させながら考えられるようにする。

- 2 グループごとにお店の内容を話し合い、表にまとめる。

※お店の数を制限することで、内容を精選させる。

※社会科で学習した米の消費量などの日本の課題を提示することで、収穫祭のテーマと関わりがないか投げかける。



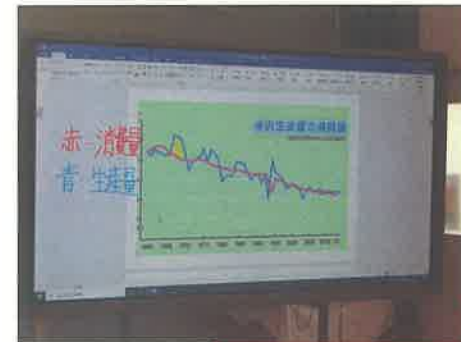
## ●研究授業におけるまとめ

テーマに合った収穫祭の内容を考えられたかどうか振り返る。

(児童の振り返り)

・自分たちの収穫祭に、米作りや農業の課題なども入れると、さらにテーマに合ったような収穫祭になりそうだ。

・私は劇を選びました。なぜならその劇を見て、つぎの5年生にやりたいと思ってもらいたいからです。



## ●単元を通して獲得した資質・能力に関わる 子供たちの姿の具体

(分かる・できる力)

収穫祭を終えて、農業の大切さ、伝統として引き継いでいくこと、作物への感謝を理解することができた。

(表現力)

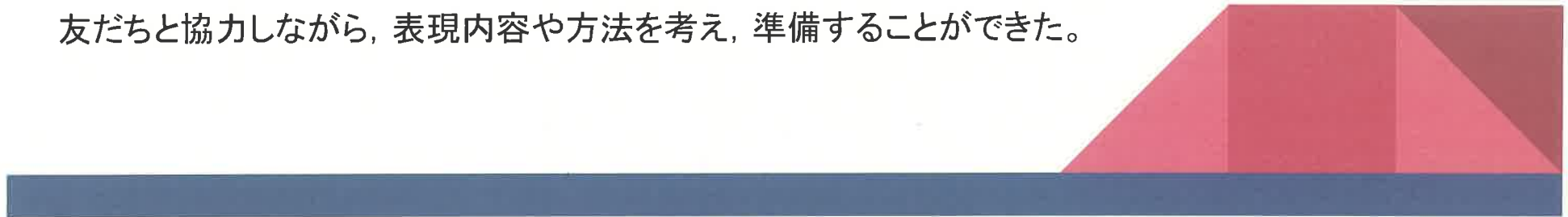
収穫祭を通して、伝えたいことに適した方法で分かりやすく伝えることができた。

(向上心)

相手意識をもち、少しでも分かりやすく伝えるために表現方法を工夫しようとすることができた。

(思いやり)

友だちと協力しながら、表現内容や方法を考え、準備することができた。



## 成果と課題

### 【成果】

- ・資質・能力を小中の系統性を持たせる形で整理
- ・小中共通のルーブリックを作成

### 【課題】

- ・ルーブリックの活用
- ・カリキュラムの内容レベルでの連携

